

中国人学部留学生の句読点の誤用に関する研究

薄井良子・佐々木良造（関西学院大学日本語教育センター）

きっかけは、学部留学生対象日本語科目「日本語 IV」の課題であるレポートの添削であった。中国人学部留学生の場合、手書きでもワープロ打ちでも句点（。）を打つべきところに読点（「、」または「，」）を打つ誤用が散見された。経験上、韓国人学部留学生にはこのような誤用は見られないことから、中国語の影響があるのではないかと考えた。

中国語ではいくつかの文で意味を成すひとつの文を作る際、文のあとにカンマ（,）をつけ、最後の文に句点（。）をつける（水野 2000）という。日本語の読点は語句または文の並列を表すことはできるが、中国語のように文脈次第で条件・時間の前後関係などを表すことはできない。

このような日中の句読点の使い方の違いを、学部留学生が理解しているかどうかを調べるため、正誤判断テストを作成した。文末に句点を使うべき所に読点を使っている誤用例（以下、点丸）を 3 例、文を続けるには活用させる必要があるのに終止形と読点を使っている誤用例（以下、活用）を 3 例、読点で並列を表す正用例（以下、並列）を 3 例、計 9 例の句読点の使い方の正誤判断テストを作成した。日本語 I の受講生 64 名のうち中国人学部留学生（以下、中国人留学生）42 名と日本語教育関連セミナーを受講している日本語母語話者（以下、母語話者）の大学生 27 名を対象に正誤判断テストを実施した。正誤判断テストの結果から、中国人留学生にとって読点を句点に直すのは簡単で、読点の並列を表す用法は難しいらしいということがわかった。また、日本語学習歴と正答率に相関はなく、日本語能力の上位群と下位群の正答率にも差はなかった。次に、正誤判断テストの回答傾向を探るためクラスター分析を行った。クラスター分析の結果、中国人留学生と母語話者のもっとも顕著な違いは並列の用法の理解で、次に活用の用法の理解であることがわかった。

今回の調査では誤用傾向の分析にとどまってしまったが、教育現場に活かせる指導方法・教材の開発を目指し、研究を続けたい。

参考文献

水野麗子（2000）「中国語と日本語における『句読点』の対比」明治学院大学外国語教育研究所紀要 10, 81-97